

【新任教員教育セミナー事後アンケート結果】

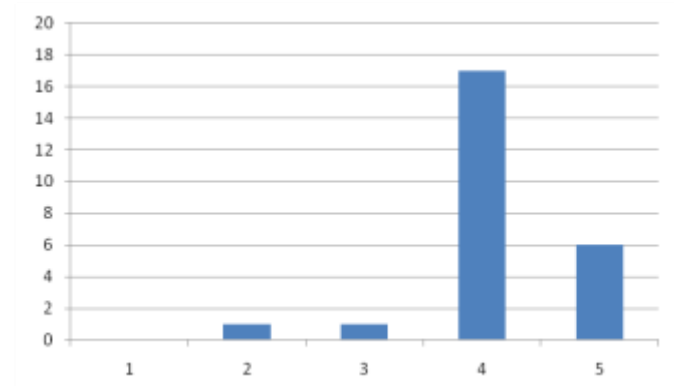
回答者 32 名(ただし、質問によって欠損値あり)

内訳(記載のあった者のみ)：教授 1 名，准教授 3 名，講師 1 名，助教 8 名

質問 1.各セッションの有意義度(1.まったく有意義ではなかった～5.非常に有意義であった)

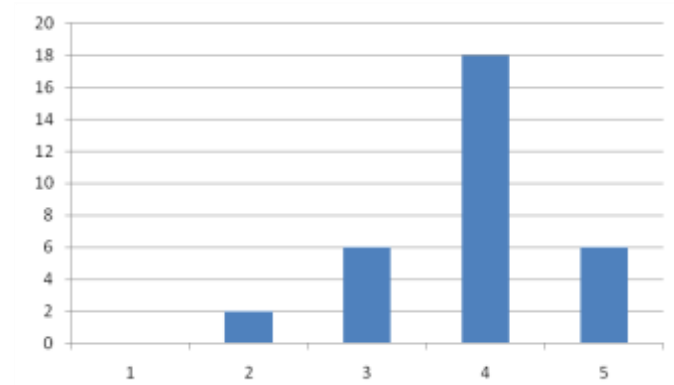
a.全体の総合評価

平均値：4.00



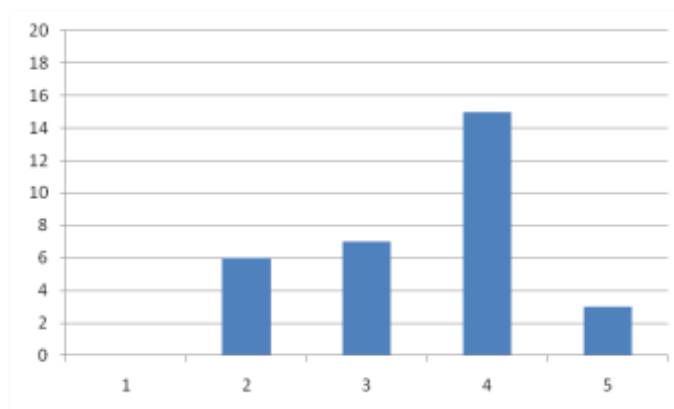
b.セッション1「現在の大学教育の動向と京都大学のポリシー」

平均値：3.92



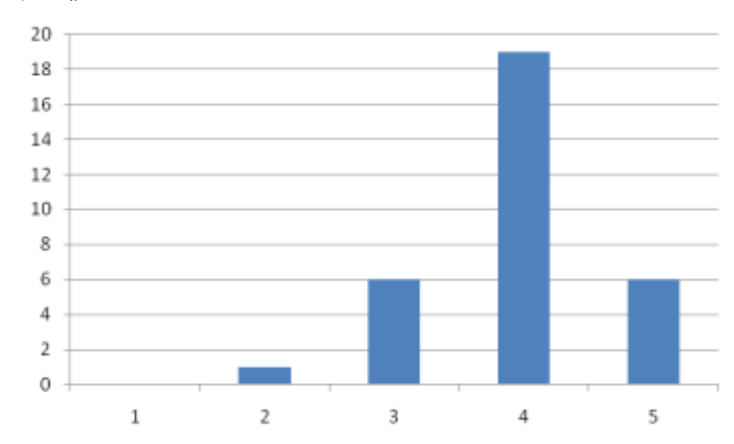
c.セッション2「京都大学のサポートリソース」

平均値：3.45



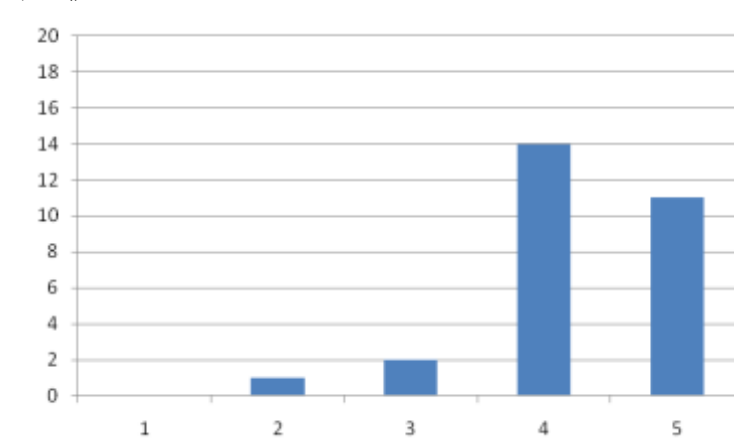
d.セッション3「全学共通教育・各部署の教育的取組」

平均値：4.00



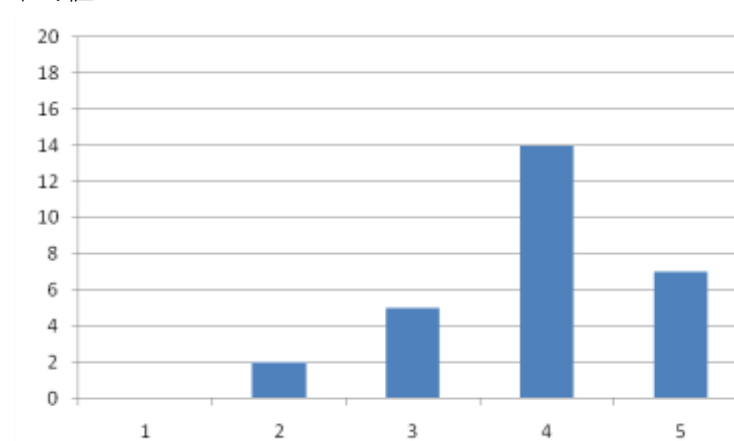
e.セッション4「グループ討論：京大でどう教えるか」

平均値：4.33



f.セッション5「ラップアップ」

平均値：3.83



質問2.開催時期について

■適切であった：15名

理由：

「半年経過した時点でないと、具体的イメージを持ち難いから」

「着任2ヶ月で問題意識を持った上で聞くことができた」

■適切ではなかった：5名

理由：

「もう少し早い時期に開催すべき。特にセッション2（前期の講義が終わってから KULASIS の説明をされても・・・）」

「普通に年度初めにやればいいと思います（特にセッション2）」

■どちらともいえない：8名

理由

「一般的内容なので、いつでも同じ」

「このようなセミナーから得たものを一年目の最初から生かすことはできないので」

質問3.プログラムで追加するとよいと思われるもの

- 教員の教学上の不満などを書面で出させ、それに回答するような場を設ける。
- 講義についてだけでなく、研究における学生への教育についてのセッションを希望。
- テーマが多岐にわたるので、追加ではなく、むしろもっと絞りこんだほうがよいと思います。
- 学部別のプログラム。
- 副学長の話のような、京都大学が抱える問題とか、取り組み、その結果について良い所だけでなく、課題も含めてもっとお話いただきたいと思う。個々の教員も全体としての方向性、そのために進むべき事項の共通認識を持つ事は大事だと思う。
- 良いプログラム構成だったと思います。
- ポケットゼミの申請法など具体的な申し込み例や、ゼミの数などを知りたかった。いろいろな情報が得られたが、もう少し具体的な例の説明が欲しかった。
- 大学全体としての取り組みや動向などの紹介がもっとあれば良いように思います。
- グループ討論の時間を増やしても良いのではないですか。
- 京大の最も良い授業のモデル。
- 授業講義の専門家、たとえば予備校の人気講師など人気講師を全体の講演に呼んだほうがよい。

質問4.グループ討論で追加したほうがよいと思われるテーマ

- 大学の進む道(副学長の話を中心としたディスカッション)、ポストクの問題(学生を進学させる事について)、社会の中の京都大学。
- 教員のキャリアパス論
- 社会人向けの教育。
- ICT等ツールを利用した教育に関するテーマがあれば良いように思います
- 「教育の国際化にどう対応するか」のテーマは、今後も議論を深めるべきです。
- 「自由な学風」とは何か？
- 学内施設をどのように有効活用するか。学際性の向上。
- 少人数授業について。
- 授業を受け持っていない職員が多かったように思いますので、対象者に合った内容にした方がよいのでは？

質問 5. セミナーの改善点

- セッション1, 2, 3はもっと短縮する方がよい。各教員の経験交換の場を増やした方がよい。
- その他の新任対象のセミナーと内容が重複しているテーマがある。
- 仕方ないことかもしれませんが、時間が長すぎる。途中休憩はせめて 2 回。グループ討論は理系か文系か、専門か一般教養かでまったく状況は異なり、一般論に止まるのであまり意味がないように思う。
- 全学の状況を見ることができる反面、ただちに医学部教育に使える内容が乏しい。スクリーンが小さくて見にくい。略語はきちんと説明して！
- 京都大学ならではの問題点や取り組みについて、もう少し要領良くまとまっていると、わかりやすくなると思う。
- 学生をどうまきこむか？というテーマだが、新任教員セミナーなので、経験を持った参加者が少なく、議論が進みにくい所があった。
- 新入の先生だけを対象とするのはもったいないと思います。
- 工学部は基本的に 3 年次よりゼミ制に近くなります。もう少し、部局の現状の差を考慮した説明内容が欲しいと思います。また桂などへの分散が進む中、学生達へも 1 回生のうちから積極的に外部構内でのゼミ参加を指導して欲しいと思います。土曜日 4 回の集中ゼミなどよろしいのでしょうか？
- セッション1,3の内容はとてためになった。セッション2の内容だけ少し事務的なものが多く、他の機会であつてもよかったと思う。この時期の研修としては、「大学における教育・研究の方針と現状」に特化して、セッション1,3の内容に時間をかけて行うともっとよかったと思う。
- もし資料が電子化できるのであれば、そうして頂けると助かります (Web で配布するか、CD-R)。
- 時間が長い。私の所属する部局は講義はほとんどしていないので、本セミナーに参加すべきかどうかは疑問です。
- 教育方法論とシステムの使い方など“テクニカル”な問題よりも、“ポケットゼミ”や“先輩相談室”の話題に出てきた「学生と教官との垣根をどうして除くか」というような方向の議論も多くしてはいかがですか？
- ディスカッションのラップアップを事前に依頼するなどしておくこと。
- セッション4が議論で終わってしまい、得るものが少なかった。
- 1 日につめこむ必要はなく、もう少し時間をとつてもよいのではと思った。

質問 6. セミナーのよかった点

- グループ討論で背景の異なる人達の意見を聞くことができたのは収穫だった。
- 京大は文・理系を総合するマンモス大学であり、各学部によって教学に関わる姿勢も異なるが、それぞれの部局の特色や雰囲気を知る機会となったこと。
- 京大全体としての(知らなかった)取り組みを知ることができた。
- 現在の学生のおかれている状況、学習環境について知ることができた。他学部で教えている内容、教え方がわかって面白かった。分野毎の違いは参考になる。自分の教え方を見直すよきっかけになった。
- ポケットゼミについて全く知らなかったため、その情報を得られたことが収穫だった。自分も担当してみたいと思う。これも含め、初年度教育の重要性を再確認できた。グループ討論で、教育に関する議論を色々行うことができた。教育に関しては普段あまり議論する機会がないため、とても貴重な体験となった。
- 答えが出なくても構わない、悩みを共有できた、ということが良かったのだと考えています。それに前向きにトライし続けることだと思いました。
- 学内のサービスや取り組みについて網羅的に知る事ができた。他の研究科の人と話す機会があるのは参考になった。
- 自分が授業を行う際のプランニングの手がかりがつかめた感じがした。